

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	・聞き手を意識した話し方、読み手を意識した書き方をすることができている。 ・読解の課題として、自分の感想にとどまり、根拠(本文)に基づいた読みが苦手な児童が見られる。例えば、「・・・がかわいそうだった。」「・・・がすごいと思った。」といった感覚的な記述で終わってしまい、本文のどの言葉や描写からそう考えたのかを説明することに課題がある。	・友達からの具体的なフィードバックを生かして表現を修正する機会を設定し、「伝える→反応を受ける→改善する」という学習過程を積み重ねることで、相手により効果的に伝える力を育てられるようにする。 ・根拠と自分の考えをセットとするワークシート及び型を導入する。例えば、思考ツールの「表」を活用して上側は根拠を書く部分（本文の言葉・描写をそのまま書き出す）、下側は自分の考えを書く部分（そこから分かったこと、思ったことを書く。）と明確に分けることで根拠に基づいた読み取りになるようにする。	
社会	・政治や歴史が自分の生活と関わっていることに気付き、ニュースや選挙、世界遺産などに関心を高めている。 ・学習したことや資料から疑問や気付きをもったり、課題に応じた資料を選択し、必要な情報を正確に読み取ったりすることがで難しい児童の姿が見られる。	・政治や経済の身近なニュースに触れながら、歴史的出来事と現在の様子や取り組みを比較することで、さらに興味をもてるようにする。 ・資料を精選したり提示の仕方を工夫したりする。また、資料を選択した理由や、資料から分かることを問い、資料を読み取る力を付けさせる。	
算数	・自分の考えと友達の考えを比較し、それぞれの解き方の良さに気付くことができていた。 ・数と計算において、通分や約分といった既習事項をはじめ、分数×分数や分数÷分数の計算についての理解度に差が見られる。	・ペア学習を多く取り入れて、児童の考えを伸ばしつつ、対話を重ねより深く考え、意欲を高めていく。 ・習熟度別少人数指導を通して、復習の場면을意図的に設定する。それぞれに合った課題や問題を提示し、基礎を粘り強く指導していく。	
理科	・これまでの学習経験や日常生活から予想を立てられる児童が多い。 ・考察を考える際に、実験結果(事実)をそのまま書くことが多く、考察となっていないことがある。例えば、物の燃え方の単元では、「集気びんのろうそくの火が消えて、石灰水が白くにごった。」で終わってしまい、「・・・だから、物が燃えると酸素が使われて二酸化炭素ができると考えられる。」という結論や理由付けまで思考を深められていない児童もいた。	・予想を立てる際に、根拠を明確にして説明する活動を充実させる。友達の予想や実験結果と自分の予想を比較し、結果を基に考えを修正したり、新たな問題を見出したりする場面を設定していく。 ・ノートやワークシートへ記述させる際に型の指導を行う。記述の例として「このことから、・・・だと考えられる。なぜなら、事前に立てた予想の通り、・・・だからだ。」と結果(事実)＋自分の考えを書けるように指導する。また、発問の際に子供が「白くにごりました。」と結果(事実)だけを発表した場合には、「じゃあ、白くにごったということは、何が起きたってことかな？」と一歩先を問	

		いかける発問は常に行う。	
音楽	・鼓笛合奏では、楽しみながら拍にのって器楽の演奏ができていた。 ・響きのある歌声はできてきているが、歌詞の意味を考えて表現を工夫したり、思いをもって歌ったりすることを卒業式に向けてさらに学習していく必要がある。	・授業や発表の機会を通して多様な楽器の演奏を実際に経験することにより音色の響きの良さや面白さを味わえるようにする。また、曲の理解を深め、強弱速度、スタッカートなど表現を工夫する楽しさを味わい、音色や響きに気を付けて思いをもって演奏できるように指導を工夫する。 ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想と歌詞との関わりについて児童が理解できるように指導を工夫する。それをもとに曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをもって歌えるよう、思いを言葉で伝え合い、実際に歌う学習を繰り返し行っていく。また表現の変容を捉えて、価値付け、協働的な学びにより表現の良さを認め合う体験を積み重ねていく。	
図画工作	・児童同士の交流を通し、制作活動に取り組むことができる。 ・作品制作の進捗差が大きくなっている。	・友達との関わりを通して制作に意欲的に取り組み作品のよさを見付けたり、作品紹介をしたりと児童との交流を深めながら制作活動に親しむ。 ・完成までの時間を具体的に示して見通しをもたせる。また、計画表等を使って自身で計画を立てさせてから活動させることで、制作期間内に作品を仕上げられるようにする。	
家庭	・グループ活動では、一人一人が目標をもちながら、児童同士助け合い主体的に活動する姿が見られる。 ・学校で学んだことを家庭で振り返り、自分自身の生活を改めて見直したり、実践したりすることが難しく、学校だけのことになってしまっていることが多い。	・目的意識をもって活動に取り組めるように、学習計画とゴールの見通しをもって活動できるようにする。 ・学校での実践を家庭でも振り返ることができるように、意図的に家庭学習を提示したり、保護者への協力を仰いだりしながら実践意欲を高めていきたい。	
体育	・友達とアドバイスし合ったり、よさを認め合ったりしながら学習に取り組んでいる。 ・自信がない単元では、どう動いて良いかが分からず、活動に消極的になる児童が見られる。	・児童同士で教え合う、伝え合う姿を引き続き価値付ける。また、友達と協働したことによる技能の向上や思考の深まりを実感する経験を積ませる。 ・動きのポイントを具体的に示し、児童が見通しをもって活動できるようにする。運動の場を段階別に設けたり、ゲームではルールを簡易化して行ったりして、児童が運動に親しみやすい環境を整える。	
外国語	・様々な活動に前向きに取り組み、アルファベットの読み書きが定着し、音との繋がりができる児童が	・タブレットやゲームを通し、アルファベットを復習する時間の確保を行い、英文の構成やアルファベットの習得	

	多い。 ・スピーチ活動では原稿を読むことはできるが、声が小さかったり、ジェスチャーを加えることができなかったり、話すことに自信がない児童が多い。	の定着をさらに高めたい。 ・スピーチ発表や会話などの場面やお互いの良さを認め合う時間を取り入れることで、相手意識をもち表現する力を高め、一人一人の児童に自信を付けたい。	
道徳	・「自分だったらこのように考える・行動する」と自分事として考えられている児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・振り返りの多くが「・・・に気をつけたい。」という漠然とした決意表明になってしまう児童が多い。	・1時間の中で、意図的なペアやグループ活動の時間を設けることで、より多面的・多角的に思考を深められるようにする。 ・変容を記述する振り返りシートを用意する。「授業前・導入時」、「授業後」の枠を付ける。また、行動の決意だけでなく「授業を通した考えの広がりや深まりについても」を考えさせ、記入させる。	
総合	・自分で課題を見出すことで、主体的に学習に取り組んでいた。 ・多種多様な情報収集をすることはできるが、適切な情報を選択し整理することに課題がある。正しい情報や必要な情報を見極める力と、それをまとめる力や表現する力を高めていきたい。	・学習のゴールを明確にすることで、見通しをもちながら学習に臨むことができた。 ・インターネットを活用する際は、学校側が厳選したサイトの中から調べるように指導する。合わせて、図書資料を活用できるように、環境を整える。	